



民謡の普及・発展

しん どう ぎ せい
進 藤 義 声
(本名 しん どう よし お
進 藤 義 雄)

(80歳)

住所
秋田市

昭和27年に進藤勝太郎氏に師事。昭和35年から本格的に民謡界入りし、昭和41年に日本郷土民謡協会第6回全国大会で優勝し、以来、国立劇場での「日本民謡の祭典」への出演など、数々のイベントに出演している。

昭和44年には秋田市に民謡酒場「義声庵」を開店し、歌い手の育成と秋田民謡の伝承に努めたほか、秋田県民謡同好会連合会結成に参画し、民謡グループ対抗歌合戦を開催するなど、民謡の普及にも尽力している。

昭和58年、民謡三吉節保存会を結成し、会長に就任。数々の大会において、審査員を務めたほか、財団法人日本民謡協会秋田県中央支部長、秋田県民謡協会理事長として、秋田民謡の発展に貢献している。



消費生活協同組合の 振興・発展

おお かわ いさお
大 川 功

(79歳)

住所
秋田市

平成14年に秋田市民消費生活協同組合理事長に就任後、同生協の経営改善に取り組んだほか、組織強化を目指し、平成20年に「生活協同組合コープあきた」を創設するとともに、平成14年から現在まで、秋田県生活協同組合連合会会長理事として、生協業界全体の発展に尽力している。

さらに、収益性に乏しく経営継続に窮していた生協の基盤強化に尽力し、平成25年9月には、7年越しで取り組んでいた、県内5地域生協の一本化を果たした。

この間、雇用支援・生活支援などの社会貢献活動にも尽力し、特に東日本大震災においては、被災地への人的派遣や支援物資の提供を行うなどの支援活動を実施したほか、「こども110番・地域安全パトロール隊」や秋田市との「高齢者見守り協定」の締結など、地域の安全・安心を守る活動にも積極的に取り組んでいる。



箏曲の普及・発展

の ぐち ひろ こ
野 口 裕 子

(76歳)

住所
秋田市

昭和24年に大庭景子氏に入門。昭和39年に人間国宝の宮城喜代子・数江氏に箏・三絃を師事。以来、長年箏曲の研鑽に努め、昭和40年、41年には皇太子ご夫妻御前演奏を行うなど、高い演奏技術を発揮するとともに、昭和42年には秋田市に箏・三絃・胡弓教室を開軒し、以降、後進の指導・育成にも尽力している。

また、国内外で多数の公演を行い、箏曲の普及・拡大に努めたほか、洋楽、邦舞、写真家など、幅広い分野の芸術と融合を図り、共同公演を実現させるなど、多岐にわたる芸術活動を展開している。

平成7年からは秋田県三曲連盟副会長、平成25年から秋田県三曲連盟会長として、本県邦楽の普及・発展に尽力したほか、秋田県芸術文化協会副会長も務めるなど、本県の芸術文化の発展に大きく貢献している。



俳句の普及・発展

たて おか せい じ
館 岡 誠 二

(75歳)

住所
八郎潟町

19歳で俳句の道を志し、以降50年以上にわたり句作。秋田の自然の豊かさと人間風土を見つめ、秋田の土のぬくもりを大切にすることを基本姿勢に創作活動を続け、これまで「冬の蜘蛛」など3冊の句集を刊行したほか、平成17年には俳文集「心根」を刊行するなど、古き良きものを現代に生かした質の高い作品・エッセイを数多く発表し、秋田県俳壇の発展に大きく尽力した。

平成12年から12年間、現代俳句協会全国大会、平成7年から現在までさきがけ俳壇の選者を務めるなど、多数の大会等で選者を務めたほか、秋田県現代俳句協会会長として指導力を発揮するとともに、現在も県内各地で精力的に講演を行うなど、後進の育成にも貢献している。



地域商工業の振興・発展

たか やなぎ きょう ゆう
高 柳 恭 侑

(73歳)

住所
大仙市

昭和41年に株式会社タカヤナギ入社、昭和56年に社長に就任し、地方百貨店であった同社の経営転換を図り、県内に16店舗を展開する優良スーパーマーケットの地位を確保し、地域の安定的な雇用に大きく貢献するとともに、地域経済の発展に寄与した。

また、大曲商工会議所副会頭、会頭を歴任し、現在も秋田経済同友会代表幹事として活動するなど、商業界にとどまらず、本県の商工業界全般にわたって、指導的役割を果たしているほか、全国花火競技大会実行委員長として、全国屈指の花火大会の発展にも大きく貢献した。

企業や生産者がともに栄えることにより、地域が豊かになるという信念のもと「地産地消」を経営方針の柱に据えるとともに、「入学を楽しむ子どもの絵展覧会」を長年にわたり開催しているほか、店舗の食品残渣を回収し、肥料として栽培したエコ農産物を販売するなど、地域貢献、環境問題にも積極的に取り組んでいる。



音楽文化の普及・発展

は がわ たけし
羽 川 武

(73歳)

住所
秋田市

聖霊女子短期大学において、音楽教育に従事する傍ら、昭和49年に秋田青少年オーケストラを創設し、以後長年にわたり、自身の演奏活動の他、初めて楽器に触る子供たちに弦楽器の楽しさを体験させるとともに、弦楽奏者の育成に力を注ぐなど、本県オーケストラ活動の向上に顕著な功績を挙げている。

昭和51年には秋田室内合奏団を創設し、音楽監督として、これまで38回の定期演奏会を開催し、広く県民に良質な演奏を提供してきたほか、平成9年には青少年音楽の家を創設し、毎年、合唱・管弦楽による著名ミサ曲の公演を行い、県内外から高い評価を得ている。

また、秋田県管弦楽連盟会長として、本県音楽活動全般にわたり高い信頼を得ており、長年にわたり本県の音楽文化の向上に多大な貢献を行っている。



漆芸の普及・発展

さい とう くに お
齋 藤 國 男

(72歳)

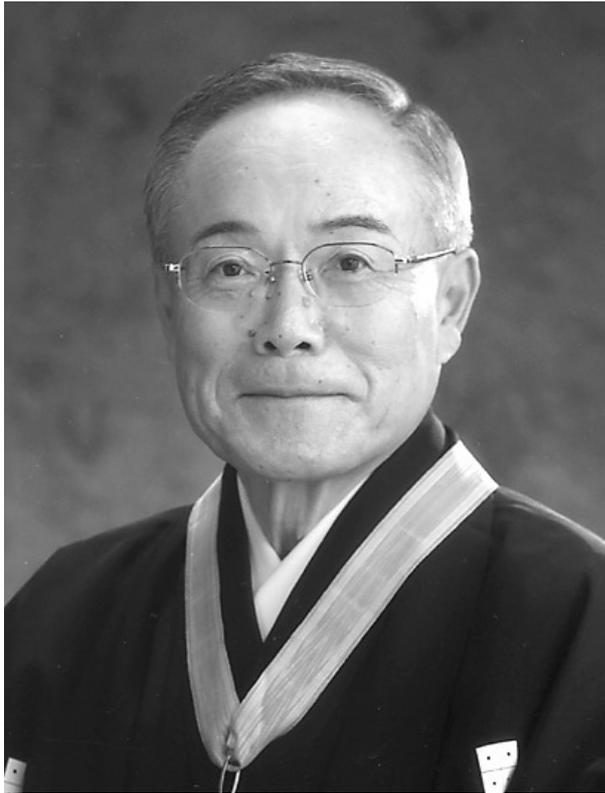
住所
秋田市

昭和33年に生駒塗りの創始者故生駒弘氏、親雄父子に師事し、昭和55年には第1級漆器製造技能士の資格を取得した。

色漆を幾層にも重ね塗りした器面を研ぎ出し、多様な紋様を創出する「研ぎ出し技法」に特に優れ、漆工品製造の傍ら、創作発表活動にも積極的に取り組み、日本現代美術工芸展、全国工芸品コンクール等で数々の入賞を果たし、高い評価を得ている。

平成20年「現代の名工」を受け一方、職業訓練指導員として、県内若手漆職人の指導や講習に精力的に取り組み、漆芸の技能伝承に尽力してきた。

また、秋田県工芸家協会会長、秋田市工芸振興協議会副会長など工芸団体の役職を歴任し、県内工芸団体との連携、協働を推進したほか、昭和51年から毎年開催されている「秋田市工芸品まつり」では市民参加の工芸体験コーナーを設け、漆芸講師として率先して指導にあたるなど、漆芸の啓発・普及活動にも積極的に寄与している。



保健医療・地域医療の向上

おお ぶち ひろ みち
大 淵 宏 道

(70歳)

住所
男鹿市

昭和49年に秋田県厚生農業協同組合連合会山本組合総合病院第一内科科長として赴任、昭和54年からは院長、平成17年からは秋田県厚生農業協同組合連合会理事・院長として、35年にわたり秋田県の保健医療、農村医療の向上に貢献した。

特に疾病予防の重要性を訴え、自らその啓蒙活動・検診活動の先頭に立ち、農村の集団検診の推進と人間ドックなど、総合検診の普及・充実に尽力し、県民の健康管理の維持・向上に大きく貢献した。

また、平成元年には地域から熱望されていた旧山本組合総合病院の新築移転を果たし、医療設備などの機能向上と医局の充実と相まって、県北地域の中核病院としての役割と機能を飛躍的に向上させた。

さらに、秋田県の地域医療を担う厚生連病院の学問的・精神的支柱である秋田県農村医学会の会長、日本農村医学会学術総会会長として、これからの農村医学・地域医療の進むべき方向を全国に発信した。

このほか、能代市環境審議会会長、能代市山本郡医師会理事を務め、また、秋田県医師会代議員、秋田県病院協会副会長、秋田県公安委員長を歴任するなど、全県的な見地からも指導力を発揮し、幅広く活躍した。